

中学校教師特有のビリーフに関する研究(2)

—ビリーフが精神的健康に及ぼす影響—

○大澤 洋子

宮下 敏恵

(埼玉県川口市立南中学校)

(上越教育大学)

問題 文部科学省(2006)の統計によれば精神性疾患による全国の公立学校教職員の休職者数は過去最多を更新している。そこで精神性疾患への対処や予防のため、本研究ではビリーフに焦点を当てる。
目的 中学校教師特有のビリーフが精神的健康に及ぼす影響について検討する。

方法 大澤・宮下(2007)の中学校教師特有のビリーフ尺度, GHQ30を用いて現職中学校教員250名に対し回答を求め200名からの有効回答を得た。調査対象者は男性114名,女性86名,平均年齢42.6歳($SD=9.51$, $range=21$ 歳-59歳),教職経験年数は平均19.7年($SD=9.69$, $range=1$ 年未満-39年),管理職22名,教諭167名,養護教諭11名であった。中学校教師特有のビリーフの「教師が求める理想の生徒像」「教師としての適性感」「他者不信感」を独立変数, GHQ30の「一般的疾患傾向」「身体的症状」「睡眠障害」「社会的活動障害」「不安と気分変調」「希死念慮うつ傾向」を従属変数として重回帰分析を行った。

結果 (1)ビリーフが精神的健康に及ぼす影響

「教師としての適性感」は「一般的疾患傾向」「社会的活動障害」「不安と気分変調」「希死念慮うつ傾向」へ、「他者不信感」は「一般的疾患傾向」「身体的症状」「睡眠障害」「社会的活動障害」「不安と気分変調」「希死念慮うつ傾向」へ正の影響を及ぼしていた(Figure 1)。

(2)教職経験年数別の特徴

1) 教職経験年数1年未満-4年

「教師が求める理想の生徒像」は「社会的活動障害」に負の影響,「教師としての適性感」は「身体的症状」「社会的活動障害」「不安と気分変調」「希死念慮うつ傾向」に正の影響を及ぼしていた。

2) 教職経験年数5年-12年では有意差なし。

3) 教職経験年数13年-19年

「教師が求める理想の生徒像」は「社会的活動障

害」「不安と気分変調」「希死念慮うつ傾向」に負の影響を及ぼしていた。

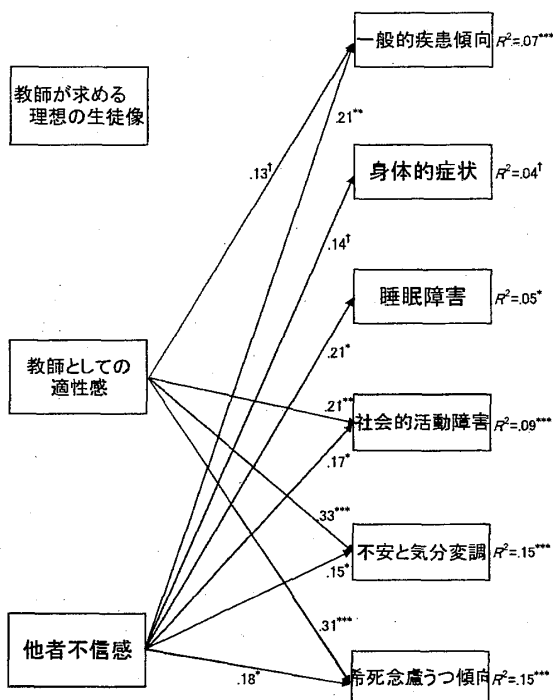


Figure 1
ビリーフがGHQ30に及ぼす影響についてのパス図
数値は標準化パス係数 *** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

4) 教職経験年数20年-26年

「教師が求める理想の生徒像」は「不安と気分変調」に、「教師としての適性感」は「不安と気分変調」「希死念慮うつ傾向」に、「他者不信感」は「一般的疾患傾向」に正の影響を及ぼしていた。

5) 教職経験年数27年-39年

「教師としての適性感」は「一般的疾患傾向」「社会的活動障害」「希死念慮うつ傾向」に、「他者不信感」は「睡眠障害」「不安と気分変調」に正の影響を及ぼしていた。

考察 教職経験年数に応じた対応を考案するとともに, 今後は教師特有のビリーフは教職経験を重ねて培われていくのか, 教職に就いた時に既に備わっているのかを検討していく必要があるだろう。